

第8回（平成10年度）BELCA賞 ベストリフォーム部門 表彰作品

北九州市 旧門司税関

所在地 北九州市門司区東港町1-24
用途 休憩所・展望台・ギャラリー
（改修・復元後）
倉庫（改修・復元前）
竣工 1912年
改修 1994年
所有者 北九州市
改修設計者 大野秀敏
株式会社 アプル総合計画事務所
改修施工者 清水建設株式会社
株式会社 山田組



門司港は日本近代化の歴史を体現する街である。

大都市の港や空港にその地位を譲った今、海峡を挟む下関とともに門司港レトロを標榜して10年にわたって近代建築の再生がすすめられている。旧門司税関は往時の貿易業社屋や鉄道終着駅などに囲まれた港の要衝に赤レンガと御影石の端正な姿を見せている。船だまりの対岸にある新築ホテルもこの税関建築を意識したレンガの建築である。

補強計画は松杭頭腐食と流失した砂利地業を充填補強するための内部のレンガ壁積増し、吹き抜けの高い内壁にはレンガ積みみのパットレスを新設するなど適切に対処している。

撤去されていた周辺の下屋部分は平面の痕跡のみの復元にとどめ、むしろ形態上の特徴と思われる塔頭部分は考証を経て復元している。戦時中倉庫として使用するために設けられた大きな外壁開口はそのまま残され、創建時と異なる屋根形態は時間の痕跡を建築に継承するという設計者の意図にしたがって現存する建築の形態の調和を斟酌し、小屋組みに鉄骨張弦梁という新しい素材と技術を導入して古びたレンガ壁との鮮烈な対比を作り出している。

配電線の地中化など街区全体の計画も周到である。限られた階高に対処した空調設備の工夫や、創建当時の様式をもつ照明器具を導入したり、吹き抜けのレンガには演色効果を考えた照明を施すなど周到な計画が随所になされている。

市の保存検討委員会による動態保存の提言に沿って建築は市民や旅行者の休憩施設となり、イベント開催など多目的利用が計られている。ここを訪れる人々にとって、新旧の建築技法が奏でる時間の痕跡は80年の歴史を実感させる生きた建築博物館ともいえる出来栄である。

BELCA賞の近年の作品には保存や復元を主目的とする改修から一步抜け出して、建築が生き続けるための処置に重点をおく作品が増してきたと思われる。西欧の組積建築では時代の要請にあわせて日常的に改修や増築が繰り返されてきた。この繰り返しの通じて元の建築の価値を発見し理解を深めてきたと思われる。町が歴史を重ねるように建築が時代を経て醸成することはサステイナブルな健全な姿であると思う。